



高可用性のインストール

この章は、次の項で構成されています。

- [高可用性アクティブ/スタンバイの概要 \(1 ページ\)](#)
- [高可用性アクティブ/スタンバイの仕組み \(2 ページ\)](#)
- [ユーザデータを使用した ESC 高可用性アクティブ/スタンバイの展開 \(HA アクティブ/スタンバイペア\) \(2 ページ\)](#)
- [ESC 高可用性アクティブ/スタンバイの展開 \(スタンドアロンインスタンス\) \(6 ページ\)](#)
- [ESC HA アクティブ/スタンバイに関する特記 \(8 ページ\)](#)
- [高可用性アクティブ/スタンバイのトラブルシューティング \(8 ページ\)](#)

高可用性アクティブ/スタンバイの概要

ESC は、アクティブ/スタンバイおよびアクティブ/アクティブモデルの形式で高可用性 (HA) をサポートします。アクティブ/スタンバイモデルでは、ESC 障害を防止し、サービスの中断を最小限に抑えて ESC サービスを提供するために、ネットワークに 2 つの ESC インスタンスが展開されます。アクティブ ESC インスタンスで障害が発生しても、スタンバイインスタンスが自動的に ESC サービスを引き継ぎます。ESC HA アクティブ/スタンバイ は、次のシングルポイント障害を解決します。

- ネットワーク障害
- 停電
- VM インスタンスのダウン
- スケジュールされたダウンタイム
- ハードウェアに関する問題
- 内部アプリケーションの障害

高可用性アクティブ/スタンバイの仕組み

高可用性アクティブ/スタンバイの展開は、アクティブとスタンバイの2つのESCインスタンスで構成されます。通常の状態では、アクティブESCインスタンスによってサービスが提供されます。対応するスタンバイインスタンスはパッシブ状態になります。スタンバイインスタンスは、アクティブインスタンスと常時通信して、アクティブインスタンスのステータスをモニターします。アクティブESCインスタンスに障害が発生すると、スタンバイインスタンスがESCサービスを自動的に引き継ぎ、最小限の中断でESCサービスの提供を継続します。

スタンバイインスタンスにもアクティブインスタンスのデータベースの完全なコピーが存在しますが、アクティブインスタンスに障害が発生しない限り、スタンバイインスタンスがアクティブにネットワークを管理することはありません。アクティブインスタンスに障害が発生すると、スタンバイが自動的に引き継ぎます。アクティブインスタンスの復元中、スタンバイインスタンスがアクティブインスタンスを引き継ぎ、サービスを管理します。

障害が発生したインスタンスが復元されると、元のアクティブインスタンスを使用してネットワーク管理を再開するためのフェールバック操作を開始できます。

ESCインスタンスは、キープアライブサービスを使用して管理されます。ESCインスタンス間のVMハンドシェイクは、IPv4ネットワーク上でキープアライブサービスを介して行われます。

ユーザデータを使用したESC高可用性アクティブ/スタンバイの展開（HAアクティブ/スタンバイペア）

始める前に

- Cisco Elastic Services Controller (ESC) 高可用性 (HA) アクティブ/スタンバイでは、キープアライブを維持し、アクティブノードとスタンバイノード間でデータベースを複製するためのネットワークが必要です。両方のESC VMには、同じネットワークに接続する少なくとも1つのネットワークインターフェイスが必要であり、ネットワークを介して相互に通信できる必要があります。
- 2つのESC VMが異なるホストとデータストアに配置されることを確認し、シングルポイント障害を防止できるようにします。

ESC HA アクティブ/スタンバイを、次のいずれかの方法でVMware vCenter または vSphere に展開できます。

- ESC HA アクティブ/スタンバイを高可用性アクティブ/スタンバイペアとしてユーザデータを使用して展開する（ESC 4.2でサポート）
- ESC HA アクティブ/スタンバイを、2つのスタンドアロンインスタンスとして展開し、POST設定を使用してそれらを高可用性ペアとして設定します。詳細については、「ESC 高可用性アクティブ/スタンバイの展開（スタンドアロンインスタンス）」のセクションを参照してください。

ESC HA アクティブ/スタンバイを、高可用性アクティブ/スタンバイペアとしてユーザーデータを使用して VMware vCenter または vSphere に展開するには、ユーザーデータファイルを HA アクティブ/スタンバイインスタンスごとに定義し、次に、各インスタンスのユーザーデータを `ovftool` を介して指定します。ユーザーデータのエンコードは、`ovftool` スクリプトの一連のコマンドを介して行われ、その結果は、`ovftool` の「`-prop:user-data =`」プロパティの変数として設定されます。



(注) 「`admin user/password`」および「`confd user/password`」プロパティは、必須の OVF プロパティです。これらのプロパティは、ユーザーデータファイルでは定義できません。

- ESC HA アクティブ/スタンバイの 2 つの VM を定義します。

ユーザーデータ 1

```
#cloud-config
ssh_pwauth: True
write_files:
- path: /etc/cloud/cloud.cfg.d/sys-cfg.yaml
  content: |
    network:
      version: 1
      config:
      - type: nameserver
        address:
        - 161.44.124.122
      - type: physical
        name: eth0
        subnets:
        - type: static
          address: 172.16.0.0
          netmask: 255.255.255.0
          routes:
          - gateway: 172.16.0.0
            network: 0.0.0.0
            netmask: 0.0.0.0
- path: /opt/cisco/esc/esc-config/esc-config.yaml
  content: |
    resources:
      confd:
        option: start-phase0
      drbd:
        nodes:
        - 172.16.0.0
        - 172.16.1.0
        run_forever: true
      esc_service:
        depend_on: filesystem
        type: group
      escmanager:
        depend_on:
        - pgsq1
        - mona
        - vimmanager
      etsi:
        depend_on: pgsq1
        startup: false
      filesystem:
        depend_on: drbd:active
```

```

keepalived:
  vip: 172.16.2.0
portal:
  depend_on: escmanager
  startup: false
snmp:
  startup: false
runcmd:
  - [ cloud-init-per, once, escadm_ovf_merge, sh, -c, "/usr/bin/escadm ovf merge"]
  - [ cloud-init-per, once, escservicestart, sh, -c, "chkconfig esc_service on &&
service esc_service start"]

```

ユーザーデータ 2

```

#cloud-config
ssh_pwauth: True
write_files:
  - path: /etc/cloud/cloud.cfg.d/sys-cfg.yaml
    content: |
      network:
        version: 1
        config:
          - type: nameserver
            address:
              - 161.44.124.122
          - type: physical
            name: eth0
            subnets:
              - type: static
                address: 172.16.1.0
                netmask: 255.255.255.0
            routes:
              - gateway: 172.16.0.0
                network: 0.0.0.0
                netmask: 0.0.0.0
  - path: /opt/cisco/esc/esc-config/esc-config.yaml
    content: |
      resources:
        confd:
          option: start-phase0
        drbd:
          nodes:
            - 172.16.0.0
            - 172.16.1.0
          run_forever: true
        esc_service:
          depend_on: filesystem
          type: group
        escmanager:
          depend_on:
            - pgsq1
            - mona
            - vimmanager
        etsi:
          depend_on: pgsq1
          startup: false
        filesystem:
          depend_on: drbd:active
        keepalived:
          vip: 172.16.2.0
        portal:
          depend_on: escmanager
          startup: false
        snmp:
          startup: false

```

```
runcmd:
- [ cloud-init-per, once, escadm_ovf_merge, sh, -c, "/usr/bin/escadm ovf merge"]
- [ cloud-init-per, once, escservicestart, sh, -c, "chkconfig esc_service on &&
service esc_service start"]
```

- 各 VM インスタンスについて、OVFtool を 2 回呼び出す必要があります。各インスタンスは、ハッシュ化されたユーザデータを指す「`--prop:user-data`」プロパティを提供する必要があります。
- ここでは、172.16.0.0 および 172.16.1.0 (フローティング) IP をインスタンスに、172.16.2.0 を KAD_VIP として使用する HA アクティブ/スタンバイインスタンスのペアをブートする例を示しています。

```
user_data_1=`cat ./user-data-1`
user_data_2=`cat ./user-data-2`
dec_user_data_1=`echo "$user_data_1" | base64 | tr -d '[:space:]'`
dec_user_data_2=`echo "$user_data_2" | base64 | tr -d '[:space:]'`
# vcenter-16 is the developer lab for vmware5
ESC_OVA=/scratch/BUILD-{$ESC_IMAGE}/BUILD-{$ESC_IMAGE}/ESC-{$ESC_IMAGE}.ova
# All valid deployment options:
#           2CPU-4GB
#           4CPU-8GB (default)
#           4CPU-8GB-2Net
#           4CPU-8GB-3Net
DEPLOYMENT_OPTION="4CPU-8GB-2Net"
deploy_vmware_vm1() {
/usr/bin/ovftool \
--powerOn \
--acceptAllEulas \
--noSSLVerify \
--datastore=$VM_WARE_DATASTORE_NAME \
--diskMode=thin \
--name=$INSTANCE_NAME"-0" \
--deploymentOption=$DEPLOYMENT_OPTION \
--vmFolder=$FOLDER \
--prop:admin_username=$ESC_VM_USERNAME --prop:admin_password=$ESC_VM_PASSWORD \
--prop:esc_hostname=$INSTANCE_NAME"-0" \
--prop:rest_username=$REST_USERNAME \
--prop:rest_password=$REST_PASSWORD \
--prop:portal_username=$PORTAL_USERNAME \
--prop:portal_password=$PORTAL_PASSWORD \
--prop:confd_admin_username=$CONFD_USERNAME \
--prop:confd_admin_password=$CONFD_PASSWORD \
--prop:vmware_vcenter_port=$VMWARE_VCENTER_PORT \
--prop:vmware_vcenter_ip=$VM_WARE_VCENTER_IP \
--prop:vmware_datastore_host=$VM_WARE_DATASTORE_HOST \
--prop:vmware_datacenter_name=$VM_WARE_DATACENTER_NAME \
--prop:vmware_vcenter_username=$VM_WARE_VCENTER_USERNAME \
--prop:vmware_datastore_name=$VM_WARE_DATASTORE_NAME \
--prop:vmware_vcenter_password=$VM_WARE_VCENTER_PASSWORD \
--prop:net1_ip=$NET1_IP1 \
--prop:net2_ip=$NET2_IP1 \
--prop:gateway=$ESC_GATEWAY \
--prop:https_rest=$HTTPS_REST \
--prop:user-data=$dec_user_data_1 \
--net:"Network1=VM Network" --net:"Network2=MgtNetwork" --net:"Network3=VNFNetwork"
\
$ESC_OVA
vi://$VM_WARE_VCENTER_USERNAME:$VM_WARE_VCENTER_PASSWORD@$VM_WARE_VCENTER_IP/
$VM_WARE_DATACENTER_NAME/host/$VM_WARE_DATASTORE_CLUSTER
}
deploy_vmware_vm2() {
/usr/bin/ovftool \
```

```

--powerOn \
--acceptAllEulas \
--noSSLVerify \
--datastore=$VM_WARE_DATASTORE_NAME \
--diskMode=thin \
--name=$INSTANCE_NAME"-1" \
--deploymentOption=$DEPLOYMENT_OPTION \
--vmFolder=$FOLDER \
--prop:admin_username=$ESC_VM_USERNAME --prop:admin_password=$ESC_VM_PASSWORD \
--prop:esc_hostname=$INSTANCE_NAME"-1" \
--prop:rest_username=$REST_USERNAME \
--prop:rest_password=$REST_PASSWORD \
--prop:portal_username=$PORTAL_USERNAME \
--prop:portal_password=$PORTAL_PASSWORD \
--prop:confd_admin_username=$CONFD_USERNAME \
--prop:confd_admin_password=$CONFD_PASSWORD \
--prop:vmware_vcenter_port=$VMWARE_VCENTER_PORT \
--prop:vmware_vcenter_ip=$VM_WARE_VCENTER_IP \
--prop:vmware_datastore_host=$VM_WARE_DATASTORE_HOST \
--prop:vmware_datacenter_name=$VM_WARE_DATACENTER_NAME \
--prop:vmware_vcenter_username=$VM_WARE_VCENTER_USERNAME \
--prop:vmware_datastore_name=$VM_WARE_DATASTORE_NAME \
--prop:vmware_vcenter_password=$VM_WARE_VCENTER_PASSWORD \
--prop:net1_ip=$NET1_IP2 \
--prop:net2_ip=$NET2_IP2 \
--prop:gateway=$ESC_GATEWAY \
--prop:https_rest=$HTTPS_REST \
--prop:user-data=$dec_user_data_2 \
--net:"Network1=VM Network" --net:"Network2=MgtNetwork" --net:"Network3=VNFNetwork"
\
    $ESC_OVA
vi://$VM_WARE_VCENTER_USERNAME:$VM_WARE_VCENTER_PASSWORD@$VM_WARE_VCENTER_IP/
$VM_WARE_DATACENTER_NAME/host/$VM_WARE_DATASTORE_CLUSTER
}
deploy_vmware_vm1
deploy_vmware_vm2

```

- VM が正常に展開された後に、ESC HA アクティブ/スタンバイのステータスを確認できます。1 つの VM インスタンスがアクティブとして起動され、他の VM インスタンスが STANDBY であることがわかります。

ESC 高可用性アクティブ/スタンバイの展開 (スタンドアロンインスタンス)

VMware vCenter または vSphere で ESC HA アクティブ/スタンバイを展開するには、2 つの別個のスタンドアロンノードを最初にインストールする必要があります。スタンドアロン ESC インスタンスがインストールされた後、次を使用して、これらのノードがアクティブとスタンバイになるように再設定します。

- kad_vip
- kad_vif
- ha_node_list



- (注)
- ESC VM ごとに、*escadm* ツールを実行して ESC HA アクティブ/スタンバイパラメータを設定した後、*escadm* サービスをリロードして再起動する必要があります。
 - ESC HA アクティブ/スタンバイを展開する際、*kad_vip* 引数を使用すると、エンドユーザーがアクティブ ESC インスタンスにアクセスできるようになります。

手順

ステップ 1 ESC スタンドアロンインスタンスにログインします。

ステップ 2 管理者ユーザーとして、アクティブインスタンスとスタンバイインスタンスの両方で *escadm* ツールを実行し、対応する引数を指定します。

- **kad_vip** : keepalived VIP (仮想 IP) の IP アドレスと keepalived VIP のインターフェイスを指定します (ESC-HA アクティブ/スタンバイ)。
- **kad_vif** : keepalived 仮想 IP と keepalived VRRP のインターフェイスを指定します (ESC-HA アクティブ/スタンバイ)。VIP インターフェイスが引数 *kad_vip* を使用してすでに指定されている場合は、引数 *kad_vip* を使用して keepalived VRRP のインターフェイスのみを指定することもできます。
- **ha_node_list** : DRDB 同期のため、アクティブ/スタンバイクラスタに含まれる HA アクティブ/スタンバイノードの IP アドレスのリストを指定します。この引数は、レプリケーションベースの HA アクティブ/スタンバイソリューションのみに使用されます。複数のネットワークインターフェイスを持つ ESC インスタンスの場合、IP アドレスは、引数 *--kad_vif* で指定されたネットワーク内にある必要があります。

```
$ sudo escadm ha set --kad_vip= <ESC_HA_VIP> --kad_vif= <ESC_KEEPALIVE_IF>
--ha_node_list= <ESC_NODE_1_IP> <ESC_NODE_2_IP>
$ sudo escadm reload
$ sudo escadm restart
```

ステップ 3 再起動後、1 つの ESC VM はアクティブ状態になり、もう 1 つはスタンバイ状態になる必要があります。

ステップ 4 VIP が外部から到達可能になるように、両方の VM で許可されたアドレスペアに VIP を追加します。

ステップ 5 各 ESC インスタンスのステータスを確認します。

```
# sudo escadm status
```

次の表に、ステータスを確認するための他のコマンドをいくつか示します。

ステータス	CLI コマンド
ESC HA アクティブ/スタンバイのロール	<code>cat /opt/cisco/esc/keepalived_state</code>

ESC の正常性	<code>sudo escadm health</code>
ESC サービスのステータス	<p>詳細情報（VIM マネージャ、SNMP、ポータル、ESC マネージャ、<code>keepalived</code> のステータスなど）を表示するには、「<code>-v</code>」を追加します。</p> <pre>sudo escadm status --v</pre> <p>詳細なステータスを確認するには、<code>/var/log/esc/escadm.log</code> をチェックします。</p>

ESC HA アクティブ/スタンバイに関する特記

- HA アクティブ/スタンバイフェールオーバーには、動作可能な管理対象 VNF の数に基づいて約 2 ～ 5 分かかります。ESC サービスは、スイッチオーバー時間中は使用できません。
- トランザクション中にスイッチオーバーがトリガーされると、すべての未完了のトランザクションがドロップされます。要求は、ESC からの応答を受信しない場合、ノースバウンドインターフェイスによって再送信される必要があります。

高可用性アクティブ/スタンバイのトラブルシューティング

- ネットワーク障害をチェックします。ネットワークに問題が発生している場合は、次の詳細情報をチェックする必要があります。
 - 割り当てられている IP アドレスは正しいもので、OpenStack 設定に基づいている必要があります。
 - 各ネットワークインターフェイスのゲートウェイで ping が応答する必要があります。
- トラブルシューティングの際には、次のログをチェックします。
 - ESC マネージャログ：`/var/log/esc/escmanager.log`
 - キープアライブログ：`/var/log/messages`（`grep keepalived` を実行）
 - ESC サービスステータスログ：`/var/log/esc/escadm.log`

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。